

【別紙様式Ⅰ】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立三田小学校

1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】	厚木市教育委員会の基本目標
2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】	
3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】	

校長名 田口 真由美

学校教育目標		学校経営の方針		
人権 安心・安全 「自己肯定感」を育む教育の推進		「互いに認め合い、安心して生活できる学校」		
今年度の重点目標				
○学びが輝く学校・「生きる力」と「確かな学力」を育む。・児童一人一人の「活躍の場」を広げる。【わかる授業 魅力ある活動】 ○人権を尊ぶ学校・認め合う場を通して「人権意識」を育む。・「特別の教科道徳」を要とし、自分にできることを考える児童を育てる。【一人一人がかけがえのない存在】 ○安心・安全な学校・「安全教育」を通して児童の「危機回避力」を育む。・環境整備や安全確保を行い、危機管理意識を高める。【安心・安全を創る】				
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学ぶ力や態度の育成 【学力向上】	1	授業改善、校内研究(算数科)の充実	「わかった！できた！輝く笑顔三田っ子～わかる授業、魅力ある授業 算数科の授業を通して～」に重点を置いて研究を進めてきた。 【成果】 ○授業における基礎・基本を定着させるための手立ての確立 ・授業時間の構造化 ・板書・掲示物の視覚化 ・個別最適な学び ・既習事項の反復練習 【課題】 ○流れを意識するあまり児童の主体性を持たせられなかった。 ○効果的なデジタル教科書の活用 ○授業中の計算カードの活用不足→習熟度の差→反復演習の必要性	○今後とも、『「分かった！できた！輝く笑顔三田っ子」～わかる授業、魅力ある授業 算数科の授業を通して～」を目指す。 ○指導と評価の一体化を意識することで、つきたい力のために最適な支援や活動を取り入れる等の授業改善を図る。 ○ICT機器の活用について、各教科の中で効果的に活用できる場面、方法についてさらに研究に努める。
互いの良さを認め合い、人権尊重を重視した心の育成 【人権】	1・2・3	「特別の教科道徳」の推進 命の日 人権旬間	○道徳教育推進教諭中心に「思いやり」をテーマに、全校一斉に道徳の授業を行った。 【成果】 ・学級の枠を越えた交流を通して、考えの幅が広がるとともに、それぞれの価値観や考えを認め合える場となった。 【課題】 ・学級の枠を越えて交流するための、各担任の授業の組み方の工夫が必要である。突発的な出来事への対応 ○「命の日」を設定し、全校に向けて心に響く取組をしたり、学年の発達段階に応じた「命」を大事にする指導を行ったりしてきた。 【成果】 ・様々な視点から「命」について考えることができた。 【課題】 ・命だけでなく、日常的な自分の行動を振り返り、どのような行動が命を大切にすることなのかを、自分事として考える。 ○人権旬間に、人権担当や児童の話を放送したり、いじめや暴力は絶対に許してはいけないということを再確認したりした。 【成果】 ・互いを大切にする心を育成するとともに、互いの良さを認め合うことを大切にする心を育成することができた。 【課題】 ・人権旬間だけではなく、随時人権意識を高める活動の必要である。	○次年度も引き続き道徳教育推進教諭中心に「全校道徳」を計画実施していく。このことにより、児童のより豊かな心の育成に努める。 ○今後とも、教材研究を重ね、授業改善を行いながら、「考え」「議論する」道徳を展開していく。 ○年間を通して、自分の命も他者の命も大切にする心情を育てていく。また、自分の命は自分で守るという意識の定着を図る。 ○人権意識を高めるために、教職員自身がよい手本となれるよう意識を高くもって児童支援及び児童指導にあたる。 ○人権旬間において、「命の授業」同様、より児童の豊かな心の育成に努めるために、計画的に実施していく。 ○各種研修を通して、教職員の人権意識を高め、児童との関わりや授業実践において、日常的な人権感覚を磨いていく。
健康安全教育の推進 【安心・安全】	1・3	避難訓練、引き渡し訓練、不審者対応訓練、登下校指導、交通安全教室	○地域の「見守り隊」のみなさんと協力しながら、児童の登下校時における安全指導を行ってきた。 【成果】三田小学校の全児童を、地域、保護者、学校で見守ることができた。 【課題】地域にお願いすることが多くなり、家庭との連携が図れていないというご意見をいただいている。 ○年間を通して、各種の訓練を行ってきた。 【成果】常に緊張感をもって教職員、児童共に訓練に取り組むことができた。 【課題】火災や地震の訓練では、児童の状態を踏まえた現実的な動きを、臨機応変に対応する必要性がある。	○引き続き、見守り隊の協力を得つつ、学校でも登下校の仕方については、各家庭と協力して、安全な登下校を進めていく。 ○各種訓練については、安全担当を中心により現実的な対応となるよう試行錯誤していく。

きまりやマナーを守って生活する子の育成【人権】	2・3	・あいさつや言葉遣い、廊下歩行、名札着用の指導の徹底	○気持ちのよいあいさつができる児童が増えてきている。全教職員で同じ指導をしていけるように、学校のきまりについて共有化を図ることができた。 【成果】 ・保護者、地域共にあいさつに関して肯定的な評価をしている。(児童によって、もしくは登校班によって課題が残っている。) 【課題】 ・ルールの徹底のみならず、なぜ、そのルールがあるのかを考え、実践する態度の育成。	○どこでも、誰にでも進んで自分からあいさつができるように今後とも指導を続けていく。 ○約束を守る大切さ、集団で生活するために必要なことを意識させるとともに、自ら学校をよくしていこうとする態度の育成に努める。また、自分達の活動が、学校をよくしていくことにつながっているということを実感させることにより、自己肯定感を育てていく。
個に応じた配慮や支援・教育相談	1・2・3	誰もが居心地のよい認め合える場を基本とし、一人一人のニーズに応じた学びの場を保障する。	○三田小学校の全児童を、全教職員で支援していく体制をとることができた。また、積極的に外部機関との連携を図ることができた。 【成果】 ・保護者からは、「先生方みんなで見守ってくれている」などという意見を多数いただいた。家庭と協力して児童に寄り添った支援・指導を図ることができた。 ・児童一人一人の状況を丁寧に見取り、課題に対して速やかに支援することができた。また、情報共有や医療連携を含めた他機関との連携も問題解決の有効な手立てとなった。 【課題】 ・個々の抱える課題が多様化しているため、それぞれに合った支援策を講ずることができるように教職員の研修が必要である。 ・共感的に話を聞く、傾聴のスキルを身に付けるとともに、教職員のメンタルケアの必要性がある。	○授業づくりを工夫し、個に応じた支援を推進するとともに、学カステップアップ支援員やこころスマイル支援員による個別支援をさらに充実させていく。 ○様々な事情で学校に登校することが難しくなっている児童が増えてきている実態から、家庭と連携したり、ケース会議を行ったり、他機関と連携しながら支援の充実を図っていく。 ○児童の抱える課題が多様化しているため、今後ともアンテナを高めて支援をしていく必要がある。
地域と連携した教育活動	1・2・3	地域の特色を生かした総合的な学習の時間、生活科、理科、社会科、食育等地域と学校が共に協力し合いながら、地域に生きる子どもを育てる。	○地域の多くの方の協力を得て、児童の教育活動が豊かになった。 【成果】 ・田んぼや畑の活動では、地域の方の指導で、本物の体験をすることができた。 ・体験を通して、児童の学びの深まりや、考え方の広がりを感じる学習となった。 ・学区の大学と連携し、理科やクラブ活動で講師としてお招きし、より専門的な学習を行うことができた。 【課題】 ・継続的な関係を保つための組織づくり。	○多くの方の協力を得る活動が多くなってきたことにより、引継ぎを丁寧に行うために、明文化しておく。 ○今後も引き続き、体験的な学びを広げるための教材研究等を進めていく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

・児童の元気がよく明るく学校生活を送っていて、挨拶がいつもよくできています。 ・先生が明るく、学校がきれいです。また、地域との関係がよいところ。 ・学校の教育活動(見守り隊、各種学校ボランティア等)について、地域の関心、理解がある。 ・周りで見ている限りでは、悪い部分は見当たりません。それが、とても良いところ。 ・地域の方々の協力によって、様々な食育や文化が経験できる点です。恵まれた立地ということもありますが、このような体験は人間形成の上で、非常に重要かと思われます。教職員の方々も、特に最近熱意のある方が増えたように感じます。児童との距離感もほどよいと思います。 ・三田小は大山や中津川に囲まれ、緑や自然豊かな環境の中で学べること、また、地域の方々との交流も多く、畑でキュウリやさつま芋、田植えから稲刈りまで収穫体験ができることが素晴らしい取組だと思います。	・全体的に教員の「そう思う」の比率が児童、保護者の割合より低いので、もう少し取り組み姿勢を見直すことが望ましいと考えます。 ・感謝と思いやりの心もち、自ら学び未来を担う人材の育成を期待しています。 ・テレビゲーム、スマホゲームの結果が気になりました。子どもたちも忙しそうです。一般的ですが、学校でたくさん遊ばせたいです。先生方、職員の方々にゆったりと過ごしてほしいです。 ・第2回で伝えましたが、今一番気になるのは、「バイパス道路の開通」です。悲惨な事故が起きぬよう、早めの対策をお願いしたいです。こちらリスクヘッジになりますが、全国で「通り魔」犯罪が増えています。今一度、各登校口や通用口の管理の徹底をお願いします。 ・児童が小学校を楽しんでいるような学校になればと思いますが、現在でも先生方の優しさの表れが児童に通じていると思います。引き続き期待しています。 ・子ども達が大きくなって、自分の育った地域を大切にすることを育むことができる学校になってほしいです。 ・地域との良好な関係を継続して、児童を地域と協働して育てていく学校であってほしいです。
---	--

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

「人権」「安心・安全」を学校経営の最重要項目にあげ、チーム三田を合言葉に全教職員一丸となって、児童が心も体も安心・安全に過ごせる学校づくりに努めてきた。安心・安全な環境づくりとして、各種訓練の計画を再検討した。また、心の安心・安全として、個に応じた配慮や支援の体制をさらに整えるとともに、外部機関との連携を積極的に図ってきた。次年度に向けても、児童の人権を守るとともに人権感覚を養う学校を創るための組織を確立する。また、チームとして一人一人の児童に寄り添い、適切な支援を行うとともに、他機関との連携や人的配慮、合理的配慮についてもさらに改善を図っていく。

また、保護者、地域の方々に支えられていることを、改めて感じた1年となった。深く感謝するとともに、地域の中の学校であることを再認識し、地域と共に三田小学校をつくりあげていきたい。